

Q ヒブワクチンとは？

A インフルエンザ菌b型に効くワクチンのことです（新型インフルエンザは「ウイルス」によるものです）。

Q いつから接種できるように？

A 08年12月からです。

Q ほかの国では、もっと早くから聞きましたが？

A その通りです。残念なことに、日本で接種できるようになったのは、他の多くの国と比べて大幅（約15年）に遅れてしまいました。

Q どうしてそんなに遅れたの？

A 日本では諸外国より発病する数が少なかったことが原因の一つとされています。

Q どんな病気が防げるの？

A 細菌性髄膜炎（約3分の2がインフルエンザ菌によるものです）が代表的ですが、そのほかに、肺炎・敗血症（血液中に細菌が侵入する病気）などの重症感染症もあります。

Q 細菌性髄膜炎にかかるとどうなるの？

A 脳やせき髄を包んでいる髄膜に、細菌感染が起こるものです。

5歳（特に2歳）未満の乳幼児

がかかり易く、初期には発熱・

おう吐・不機嫌・けいれんなどが

生じます。しかし、これらは

どれもこの病気に特有のもので

はありません。診断・治療が難

しく、亡くなったり、重い後遺

症が残ることがあります。

Q ワクチンの接種方法は？

A 三種混合ワクチンと同じように接種するのが基本です（三種混合と同時でも可）。2か月以上7か月未満に開始するのが望ましいとされています。

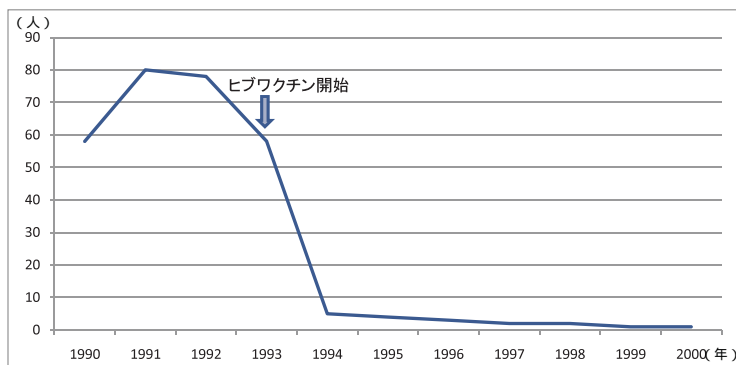
Q 副反応は？

A 主なものは、接種部位の発赤や腫脹（はれ）、硬結（しこり）などですが、どれも一時的です。すでに世界中で2億人近くに接種されており、安全性は高いとされています。

Q 効果は？

A 定期接種（無料）として普及すると、急激に発病が少なくなります。図はその一例として、デンマークでの発生数の変化を示しています。このような状況から、世界保健機関（WHO）は、12年前に各国に対して定期

図：デンマークでの発生数の変化



接種化を勧めました。

Q 問題点は？

A ①早期診断が非常に困難。②耐性菌（抗生物質が効かない）の増加。③発病年齢の低下。④感染症数の増加。⑤ワクチンの不足。⑥ワクチンが高価。などです。

Q これからの課題は？

A ワクチンの定期接種化を実現し、できるだけ早く乳幼児全員がワクチンを接種できるようにすることです。

日曜・休日に実施している医療機関

午前10：00～午後4：00

月日	場所	診 療 所 名	科 目	☎(048)	場所	診 療 所 名	科 目	☎(048)
9	5	朝霞 朝霞駅東口たんば 内科クリニック	内・消	450-2211	新座	志木耳鼻咽喉科医院	耳・気	472-9555
	12	新座 宮崎医院	内・小	042- 474-0458	朝霞	上野胃腸科	胃・内・放・外・ 皮	461-6565
	19	和光 わこうキッズえきまえ こどもクリニック	小	466-9816	志木	田島耳鼻咽喉科医院	耳	475-3308
	㊦	志木 柳瀬川駅前クリニック	内・呼・循	486-6201	新座	かきの木整形外科医院	整	471-8800
	㊧	朝霞 富岡医院	内・胃・小・循	461-7581	和光	和光クリニック	内・アレ・リウ	468-2115
	26	朝霞 朝霞台クリニック	内	472-1288	和光	富澤整形外科・内科	整・リウ・泌・ 内・胃・リハ	468-3456

※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。

